市民読書サポーターだより
みしのたくかにと
No. 301　2026.11.1.
【発行】
富士宮市教育委員会
社会教育課
☎ 0544-22-1186

「絵本とわらべうたの会」2026年度⑦

日　時　11月10日(火) 10:00～11:00
場　所　西公民館 1階 集会室
定　員　15組

就園前のこどもとお母さんを対象にわらべうたと絵本の読み聞かせで楽しいひとときを過ごします。
初めての方もリピーターの方も大歓迎です。

市民読書サポーターのいる日程　11月

市立中央図書館（10:00～12:00）	7日（土）	15日（日）
	21日（土）	28日（土）

読書推進講演会　川辺陽子（かわべあきこ）氏

「子どもと本の幸せな出会いを求めて ー児童書専門店店長の立場からー」

子どもの本の専門店・教文館ナルニア国は、長く読み継がれたロングセラーの本を核にして販売している本屋で、子どもの本に携わる者にとって聖地のような本屋です。９月２８日に店長である川辺陽子さんの講演会がありました。

川辺さんは朗らかな方で、はじめにナルニア国の成り立ちや、現在本屋を取り巻く厳しい現状など具体的に説明してくださいました。途中、ご自身のお話になると遠慮がちでシャイな部分を見せ、人柄の良さを感じました。ただ、本のことになると熱く語る情熱家でもありました。



『西遊記』
福音館書店

さて、川辺さんの読書体験ですが、幼少期には、地域の母親たちが運営していた近所の文庫に通って、自分が好きな本を自分で選んで読んでいたとのことでした。過度に干渉されない文庫のおばさんの適度な距離感がよかったそうです。小学校高学年になると、『西遊記』の世界にどっぷりはまり、その時期にこの本と出会えてよかったと思ったそうです。誰もがこのような経験ができるとは思いませんが、このように大人が勝手に決めずに、子どもを信じて、本を手渡してくれたからこそ、良い本に出会えたのです。これは今、子どもたちに良い本を読んでほしいと願う、私たち大人にとって大切なことだと感じました。

また、大人になってアルバイト先の本屋で『ちいさなうさこちゃん』の読み聞かせを聞いた時、お母さんに読んでもらった子どものころの記憶が一気によみがえり、「声が違う！イントネーションが違う！」と感じて驚いたというエピソードには共感しました。子どもの本を読むと、すっかり忘れていたその頃の記憶、景色、におい、などが急に思い出されることが度々あります。



『ちいさなうさこちゃん』
福音館書店

他にも、小学校に出向いて行うブックフェア（書店員が昔話の語りやブックトークをして、子どもたちや先生にロングセラーの本を手にとってもらう。学校をあげて本の世界を楽しむことで、ナルニア国おすすめの本の購入につながる）のお話も、書店ならではのイベントで、子どもたちはもちろん、先生方も楽しんでいる様子がとても興味深く、うらやましいなと思いました。

書店と私たちボランティアは立場は違うけれど、子どもたちに良い本を楽しんでほしい、素晴らしい本と出会ってほしいという志は一緒だなと感じました。　（市民読書サポーター 鈴木志保）